

KITAGIN NEWS RELEASE 2024

2024 年 3 月 26 日

各 位

株式会社 北日本銀行

きたぎん SDGs 経営サポート Progress（発展版）策定支援について ～株式会社プラシーズ～

株式会社北日本銀行（頭取 石塚恭路）は、取引先企業さまの SDGs への取り組みを評価分析し、SDGs 経営を支援する「きたぎん SDGs 経営サポート」を取り扱っております。この度、本サービスのうち Progress（発展版）を通じて、株式会社プラシーズ（代表取締役社長 藤田功一）が SDGs 経営ストーリーを策定されましたので、下記の通りお知らせいたします。

今後とも当行は、取引先企業の SDGs の取り組みを支援し、持続的な地域社会の実現に貢献してまいります。

記

1. 会社概要

会 社 名	株式会社プラシーズ
所 在 地	〒111-0052 東京都台東区柳橋 1-2-12 柳橋 M ビル 2F
代 表 者	代表取締役社長 藤田 功一
業 種	合成樹脂成型品製造業
会 社 概 要	当社は、合成樹脂成型品製造（プラスチック成型加工）、紙器企画製造をメイン事業としております。化粧品業界を中心に製造・販売しており、高い設計・技術力を生かしながら、ECO を意識した生産、新しい原料・材料を取り入れて容器を製造しております。地域資源とコラボした地元発祥のブランディング戦略やリサイクル資源を活用した化粧品容器など持続可能な事業展開により、地域経済活性化にも貢献してまいります。
	

KITAGIN NEWS RELEASE 2024

2. 未来に目指すインパクト

未来に目指す インパクト	付加価値：岩手県の平均所得増加 生産価値：省・再エネ設備導入による CO2 排出量削減への貢献 地域価値：岩手県の若手人口の増加
貢献する SDGs17 目標	         

3. きたぎん SDGs 経営サポートについて

取引先企業さまの SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）への取り組みを促進するため、取引先企業さまの SDGs の取り組み状況を確認し、優先課題を決定した上で、目標設定を行うこと（Basic：基本版）、また、サプライチェーン分析による事業活動の流れと SDGs 貢献度を分析し、未来志向の目標設定（Progress：発展版）をお手伝い致します。

以 上

[本件に関するお問い合わせ先]

営業統括部 事業コンサルティング室（担当：小瀬川） TEL：019-626-6529

2023年度

SDGs経営ストーリー



2024年3月

※一部抜粋版



PLUSEEDS

株式会社 プラシーズ

1. 経営ビジョン

経営理念

Propose as Professional.

Pursue with Passion.

Play, Pluseeds!

当社の特徴

「ワンストップ対応」



「トータルパッケージ対応」

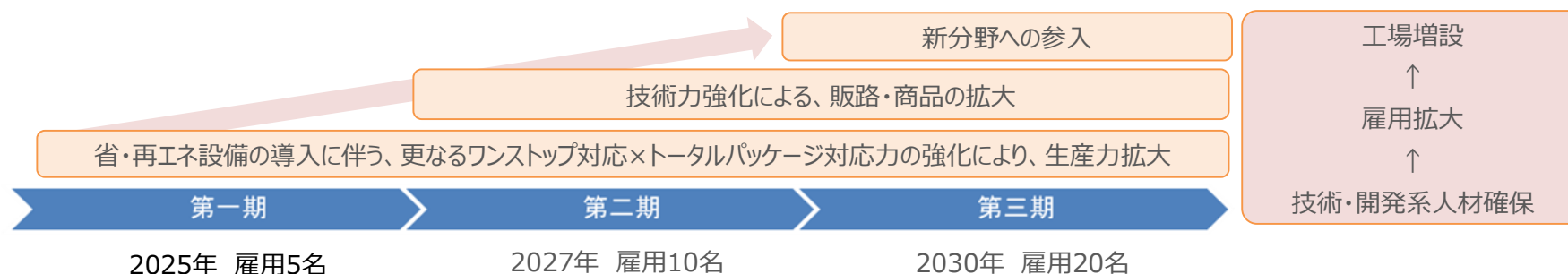
■ 受注一貫生産 ■ 裏打ちされた技術力

■ 創業80年の老舗成型メーカー

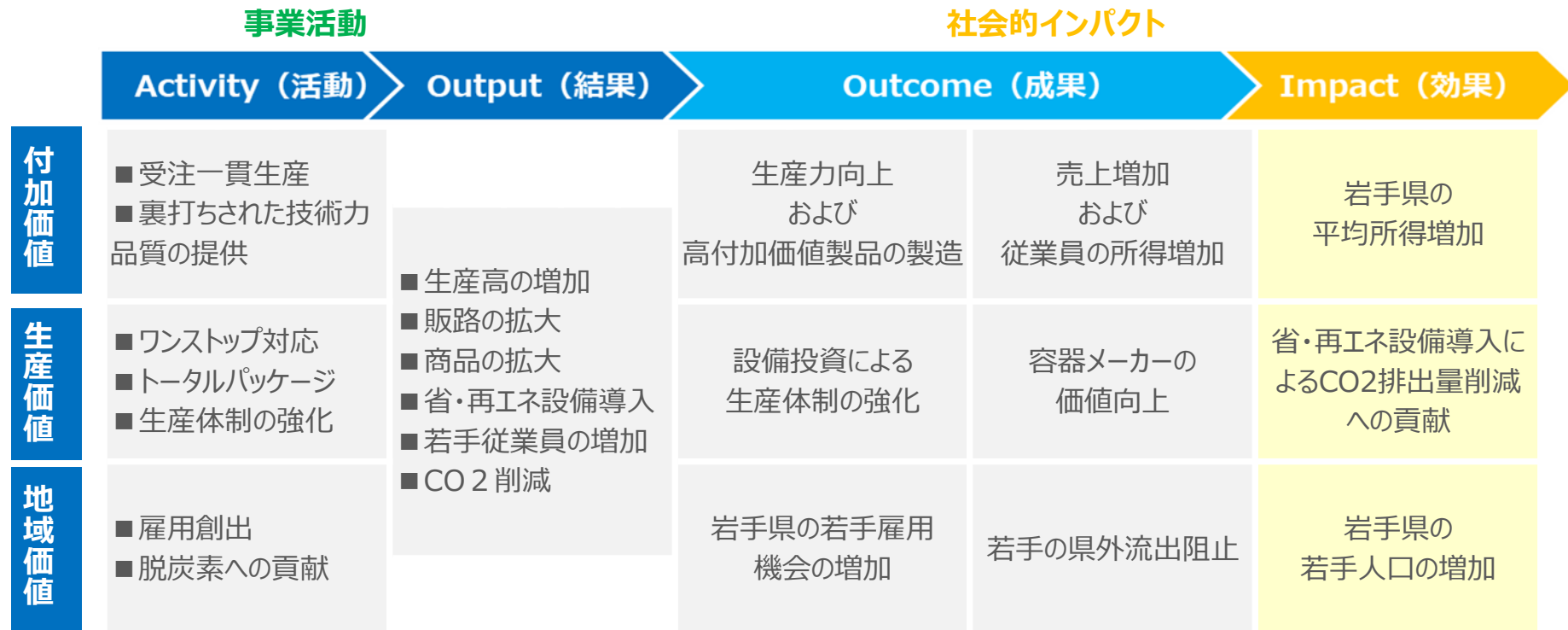
事業ビジョン

3つの方針	事業戦略	期待する効果	
品質方針	顧客の信頼と満足を得る品質を提供	受注一貫生産体制の追及による高い品質の提供	不良品率、返品率の低下
環境方針	廃棄物の削減と脱炭素社会への貢献	廃棄物の再資源化の向上とCO2排出量の削減	最新省エネ設備導入と廃棄物の再資源化で環境負荷軽減
事業方針	頼りにされるもの創り集団	取引先ニーズへのコミットメント	取引先および当社従業員の当社へのエンゲージメント向上

ロードマップ



2. SDGsインパクト



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【前提とする考え方】

- 環境保護に配慮した事業活動に取り組む。
- ワークライフバランスとダイバーシティの実現に取り組む。
- コンプライアンス・ガバナンスを重視し、不正ゼロを継続する。

3. マテリアリティ（重要課題）

具体的目標・取り組み内容

環境の保全	従業員の働きがい	地域社会への貢献	コンプライアンス・ガバナンス
廃棄物の3Rの推進により、プラ廃棄物を減らし資源の再利用を推進	健康診断の結果を踏まえ、再受診勧奨を実施	地域金融機関と連携し、SDGs関連サービスを利用	コンプライアンス教育の実施
2030年度のプラスチック使用量を2020年度比で30%削減	コンプライアンス教育により、ハラスメントや差別発生の防止	産学官連携し、技術やノウハウを活用	内部通報制度の定着化および内部規程の充実
自然に還るバイオマス素材や廃棄材料使用、分別しやすい容器の開発	障害者の積極的雇用（障害就労支援センターの活用）	ワークショップ開催の継続による地域社会への貢献と新素材の製品化	情報セキュリティ事故発生ゼロ

2030年のきたぎんSDGs経営サポート診断結果目標

